

第39回 南区会長旗争奪夏季大会
第33回 下京・南支部長杯争奪大会
第32回 京都洛南ライオンズクラブ旗争奪大会
第30回 読売新聞社杯争奪大会

特別規則と注意事項

南区少年野球振興会

- ベンチには、登録選手(20名)・代表者・監督・コーチ・スコアラーの計25名以内しか入ることは出来ない。
ベンチは抽選番号の若い方を一塁側とする。
- 監督・コーチは選手と同一意匠のユニホームの着用を義務づける。
《監督は30・コーチは28・29の背番号をつけていること。》
選手は防寒の目的に限り、アンダーウェアの着用を認める。
- 試合当日、登録された監督が何らかの理由で変更になる場合は、メンバー表の監督の欄に代理と記入し本部に提出すること。
- 試合球はJ号球とする。
- 試合は、1時間20分・6回戦とし以降新しいイニングには入らない。
勝敗が決しない場合は特別ルールにて1イニングのみ行い、特別ルールでも勝敗が決しない場合は、抽選にて勝敗を決める。
ただし、決勝戦は1時間30分の6回戦とし、同点の場合は、特別ルールにて勝敗が決するまで行う。
【特別ルールは、ノーアウト・ランナー1塁・2塁・バッター継続打順からという同一条件にて行う。】
- 4回10点、5回7点差がある場合、コールドゲームを採用する。《但し決勝戦は除く》
- 投手の投球数は、70球を上限とする。但し上限到達時の打者までの投球は認める。
- 暗雲降雨により試合を中断した場合、4回を終了していれば試合成立として終了する。
但し、それ以外の場合は、中断時点からの継続試合として後日改めて行う。
- 野手がボールデッドライン付近のフライを捕球後にボールデッドゾーン内に入った場合は、ファウルボールとする。
- 手袋の使用は、打者および投手以外の野手については、これを認める。
- 投手交代時の投球練習中のダッグアウトを出ての素振りは、次打者にのみこれを認める。
- 試合開始時間前でも、前の試合が早く終了した場合は直ちに次の試合を開始する。
- 試合開始時間になっても球場に出来ないチームは棄権とする。
- 日程の都合上、小雨の場合でも球場使用が可能な状態であれば強行する。
- タイムはプレーヤーが要求した時ではなく、審判員が認めた時である。
- 抗議できる者は、監督、主将か当該プレーヤーのみとする。《但し、ルールの適用に誤りがあった時のみ》
- 球審は、当振興会審判員にて行い、塁審のみ各チームより出す。
《準決勝戦・決勝戦は球審・塁審とも当振興会審判員にて対応する。》
- 審判の服装は、上は紺色の長袖シャツ、下は、紺または黒色の長ズボンを着用し、靴は黒色の物を履くこと。
夏服への変更については、当振興会からの連絡にて対応すること。
《担当試合の30分前には、集合すること》
- どんな方法であろうと、相手チームの選手や審判員に対して悪口・暴言は禁ずる。
- 選手並びに応援団の行動については当該チームが一切その責任を負うこと。
- 本大会では、不慮の事故及び障害等の責任は一切負いません。
- 雷鳴が発生した場合は、球審の指示により直ちに試合を中止し『太陽の家』の建物へ避難する。
- その他競技規則は、2025年公認野球規則及び全日本軟式野球の内規を適用する。